



# ピッポ新聞

2012

4

No.261

## 子どもの本専門店 ピッポ

### ピッポ古書クラブ

〒424-0886

静岡市清水区草薙1-6-3

TEL &amp; FAX

054-345-5460

URL <http://www.pippo.co.jp>E-mail [itoh@pippo.co.jp](mailto:itoh@pippo.co.jp)

スイスの山にのぼりたいな！  
(その1)  
飛行機のチケットを予約したぞ

このピッポ新聞の題字の「山」は言わずと知れたマッターホルンです。これは多くの気持ちをあらわしたもので、1月号でも書いたように、多くの長年の夢は「スイスアルプス」に登ることです。たんなる観光旅行でなく、目的は山登りですから、自分の体力が大いに問題になるのですが、去年病気をしたこと、自分の年齢を考えた場合、このままでは夢が夢で終わってしまうことに気付いたのです。これではいかん！そこで、とにかく一歩を踏み出すことを決意しました。

第一関門は、実はこれが一番重要であり、一番難しいのです。何のことかかって？もちろんカミさんの「許可書」のことです。

これをなんとかクリアーし、次はパスポート、これも区役所に行き入手しました。さて、次はスイスの山の情報です。長年の夢だといっても、「アイガー」「マッターホルン」「モンブラン」という名前に憧れていただけで、位置関係も含めて具体的には何も知りません。3月は図書館の受け入れ作業の当番なので週一回図書館に出かけなければならぬことを幸いに、スイス関係や海外旅行関係の本を目に付くところから借りまくりました。

まず分かったことは、目標のマッターホルンは、

今のぼくの体力と山の技術ではかなり無理があることです。でも、幾つかの4千メートル峰には、山岳ガイドの助けを借りれば登れそうだという結論を得ました。

そこで立てた計画が、ツェルマットとグリーンデルワルトを拠点にハイキングを楽しみながら、高度順応をはかりながら幾つかの4千メートル峰を目指すというものです。

次はスイスまで行く航空券を手に入れることです。「格安航空券」という単語は聞いたことがあるが、これもどういふことか分かりません。ネットで調べてみました。

少し分かってきました。航空券を手に入れるためには、具体的な日程を決めなければダメという事です。そこで7月9日出発で7月23日帰着としました。これで探してみました。安い順から見ると11万円代12万円代13万円・・・と出てきます。

よく新聞広告などで見るパックスツアーに較べると、いずれも思っていたより高いのです。パックス旅行でなく個人で行く場合は割高になるのですね。安い航空券はアジア系の航空会社が多いようです。それならばと、一番安い航空会社のチケットに決めようと思ったのですが、よく見るとこれはチューリヒまで要する時間が二十五時間以上かかかったりします。

もちろん一番高いけど便利なのは、スイス航空の直行便で成田からチューリヒまで十二時間ほどで着きます。でもね、これだと二十万を越えてしまうのです。これではちょっと無理です。いろいろ調べた結果、

(4頁後半に続く)

お知らせと予約募集

名作絵本フレスコ版画館

『もりのなか』 (12600円)



エッツの代表作「もりのなかの」の圧巻、見開きページの男の子の後に動物たちが行列をしている場面です。絵本は独特の黒一色ですが、本品は淡彩色づけられています。エッツの原画から採っています。

『おもちゃ箱』 (9240円)



194 x 220 ミリ  
(版画仕様・外枠を含む)

『おもちゃ箱』はドビュシーが作曲して、エレが絵をつけたもの。アンドレ・エレはフランスの絵本の黄金時代を開いた一人である。エレの絵は彩色石版で描かれている。

『三びきのやぎのらがらどん』 (9240円)



194 x 220 ミリ  
(版画仕様・外枠を含む)

マーシャ・ブラウンの『三びきのやぎのらがらどん』は、いつの時代の子どもたちも惹きつけてやみません。場面は大きなヤギのらがらどんが、トロールをこっぴらみにする場面です。

新しい技法フレスコ版画

本作品はGravure de Fresque(グラビエール・ドウ・フレスコ(フレスコの版画))という新しい技法で作成されています。漆喰のやわらかさや表情を持つ特殊な素材を使ってフレスコ画の古典的な技法を最新のテクノロジーで再現させた版画です。作品にあわせた木製の枠組みを使用しています。小さな作品ですので、マップピン

(ご注文の中に同梱します)ひとつでお気軽に壁に飾って楽しんでいただけます。この「フレスコ版画」は「木版工房・アートリエ38」の制作です。

ご注文はピッポまで  
メール [toh@pippo.co.jp](mailto:toh@pippo.co.jp)  
または、電話 054-345-5460

ご注文品がお手元に届くまで

＊配送料

お届け先一カ所に別途1000円(北海道・沖縄・離島は1500円)

＊返品・交換

瑕疵品に限り8日以内にご返送品ください。  
＊個人情報取り扱いについて

お客様の個人情報は当店及び提携会社による商品発送、カタログ・DM送付などに利用させていただきます。お客様が同意なく第三者に開示・提供することはいたしません。右同意の上お申し込みください。

『新装版 絵本図書館』 世界の絵本作家たち (2415円) ブックグロブ社)

4月10日 発売予定 予約募集!

前版で紹介されていた絵本作家は58人であったが、新装版では75人と紹介作家が増えています。

ねー、この本読んだ

『おべんとう』（小西英子・作 840円 福音館書店）



も冷凍なの？なんて余計なことをいってはいけないのである。子どもはお母さんの作ってくれるお弁当が大好きなのですから・・。同じ著者の『サンドイッチ サンドイッチ』（福音館 840円）も出ている。

『中をそうぞうしてみよう かがくのとも絵本』（佐藤雅彦+ユーフラテス 945円 福音館書店）

見ようと思えば、物の外側は見る事ができる、だがその中はいたいどんな風になっているか？この本はそれをそうぞうしてみる事の面白さと、X線写真で撮った物を見せてくれる。例えば椅子に打たれたくぎがどんな風なのかとか、針山の針がどんなくあいかなど、中の状態が見えない物をX

好きです。お母さんの作つてくれるお弁当ができてあがるまでを楽しく描いた絵本。

おい、そのミートボールは冷凍食品か？そのブロックリー

のブロックリー

線写真で次ページで表していく。見えない物を想像するって面白いね。ぼくが今一番見たいのはいまだに原発を推進しようとしている人の頭の中。この場合X線写真で見えるのは、人の脳の構造だけで、その人が何を考えているのかまでは見えない。その中味を見るには想像力が必要だ！



『あなた』（谷川俊太郎・分 長新太・絵 1260円 福音館書店）

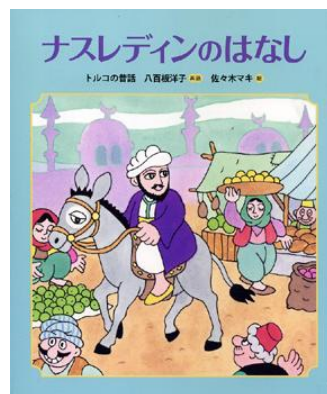


この絵本、かつて同じコンビで「かがくのとも」として出版された『わたし』（現在もかがくのともし傑作集として出版されている）と対をなしているようだ。

『わたし』では、自分（わたし）以外の人や動物から「わたし」を様々に見ることで、自分の置かれている場所をとともよく理解することができたが、今度は「わたし」からほかのもの（回りの人や動物など）との関わりを見ることで、自分の回りのものとの関係（まわりの社会）がともよく理

解できる。

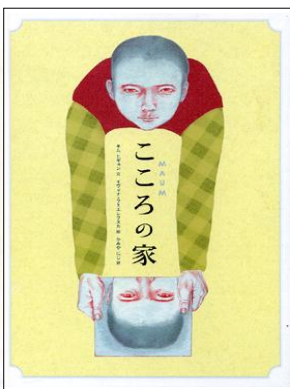
『ナスレディンのはなし』（トルコの昔話 八百板洋子・再話 佐々木マキ・絵 1260円 福音館書店）



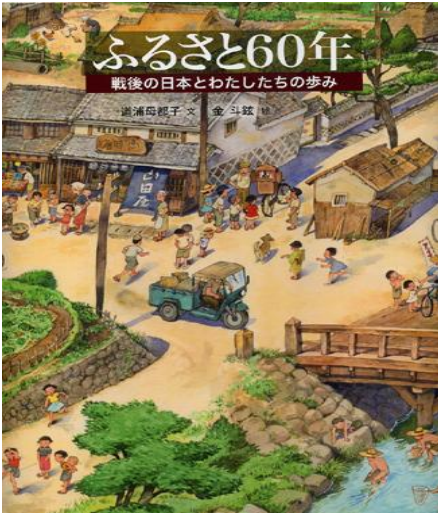
この絵本には4つのトルコの昔話がいっている。主人公のナスレディン・ホジヤは機知に富んでいて、とても世渡り上手です。話しもユーモアがありとても面白

い。佐々木マキの絵もとても愉快だ。もし、こんな話をもっと読みたいと思つたら、『天からふってきたお金 トルコのホジヤのたのしいお話』（1890円 岩波書店）や『子どもに語る トルコの昔話』（1680円 こぐま社）もどうぞ。

『MAUM じじいの家』（キム・ヒギョ



ン・文イヴオン・フミエレスカ・絵 かみやにじ・訳 1680円 岩波書店）ひとの「こころ」の中はよく見えない。自分ですら自分の心はよくわからないことが多い。心の動きは様々。



スキャナーの画面の大きさからはみ出してしまったため、左右の画面が少し切れてしまったことをお詫びします。

である。その動きを文と絵で語っていく。「そうだ、そんなことつてよくあるよね」と共感を覚えた。読んでいて何故かとても「こころ」が癒される絵本である。

この絵本韓国の詩人とポーランドの画家の手によって作られた、ボローニャ・ラガッツイ賞受賞

『ふるさと60年 戦後の日本と私たちの歩み』 (道浦母都子・文 金斗鉉・絵 2415円 福音館書店)

おじいさんとおばあさんが孫たちへ自分たちの体験してきた戦後の日本を語っていく。自分の故郷を定点観察で時代の変化をえがいていく。見開きで、その時々の特徴的な場面を描き、次ページ左頁でその説明文と、右頁では子ども遊びを中心にその時代の風俗(前ページで描かれている子どもたちの遊び)が拡大して描かれ、説明されている。

この絵本の帯に福音館書店創立60年記念出版とある。問題点(本質)をサラッと流し、戦後日本をこれだけ肯定的に捉えたこの絵本の内容のように、さらに松井直氏の解説文を含めて、良くも悪くも福音館の出版文化というものがよく理解でき、妙に納得できた本である。

1頁からの続き

アエロフロート・ロシア航空の便が、価額は十三万四千三十円。成田を9日の午後十二時五分に発ち、モスクワ経由で、チューリヒに午後八時五十分に着く、所要時間は十五時間五十分が一番よいという結論に達しました。

ESという旅行会社のサイトに申し込みをしたのですが、一番最後のところで何度やっても予約にまで到達しません。そこで日を改めて再度申し込みをすることにしました。ところが、一晩経ったら不安なことが持ち上がってきたのです。

それはチューリヒの到着予定が、午後八時五十分とあることです。入国手続きなどで時間をとられれば、チューリヒの駅に着くのが午後十時を過ぎてしまいます。言葉もろくにしゃべれないのに、ホテルを予約していったとしても、その場所を探すのにも時間が掛かるだろうなどと考えたら心配になってしまったのです。

そこでまた、別な便を探してみることにしました。そして、チューリヒに午後六時半に着く「ズオランダ航空」の便が見つかりました。これならある程度不安は解消されるでしょう。

ただ、こちらは料金が十五万八千五百七十円とアエロフロートより二万五千円近くも高くなるのです。さて、どうしよう。

「安さ」をとるか「不安解消」をとるか。えーい、初めての「単独海外遠征登山」(大げさな表現)だ!ここは少しでも「不安解消」を優先させることにしよう。ということ、ズオランダ航空便を予約しました。

もちろん、これも直行便ではありません。アムステルダムのスキポール空港を経由してチューリヒまで約十五時間かかります。

旅行会社から送られてきたメールの予約内容によると、7月9日の朝八時四十分までにきて、ズオランダのカウターで一人でチェックインしてくださいとあります。帰りの便はチューリヒを23日の午後一時半に発ち成田に翌日の午前十時五十分につくという予定です。

朝八時四十分成田は、静岡からでは少し大変です。そこで、前日に成田までいつていることにしました。ここでもホテル代が余分に借ります。あーあ、まだ旅は始まっているのにね。これからどんな山に登るかを決めてからホテルの予約です。(続く)